

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

検修全面外注化に 今こそ怒りの声を！



JR東は10月1日から駅派出業務を本区と融合化しようとしています。事実上、「派出対応はもう行わない」というに等しいものです。乗務員は何かあっても駅に到着時さえ車技に対応してもらえなくなります。さらに、来年4月から新系列車両の機能保全の外注化を可能にすると提案しています。

現場からの反乱を恐れている

会社は「交番検査を委託している職場で車両が新系列に置き換わるからだ」などと説明しています。しかし、現場で働いていれば、検修全面外注化と分社化・転籍の攻撃であることは誰もが感ずることです。

会社は説明で、「新たな出向はない」「すべて外注化ではない」「すべて」と強調しています。しかし、「来年4月の段階では」という意味ではありません。しかも、攻撃が全面外注化、分社化の段階になる以上、その時に狙われるのは転籍攻撃です。

なぜ、会社はこんなごまかしを行うのでしょうか？ それは現場からの怒りの反乱を恐れているからです。

動労千葉は、外注化攻撃に全力で立ち向かい、12年以上にわたって攻撃を阻止し続けました。会社がそれだけの間、外注化強行に踏み切れなかった最大の理由は、現場の怒りの決起と動労千葉への加入を恐れていたからです。会社の弱点がここにあります。

とくに転籍は、労働者、労働組合の同意なく強制することはできません。会社は、労働組合の力と、再び現場からの怒りの反乱が起きることを恐れています。

カギは闘う労働組合の力

JR東でも車輪・車軸の組立作業で記録の改ざんと隠ぺいが明らかになりました。東北新幹線では走行中に連結部分が外れるという前代未聞の事態が起っています。信じがたい安全の崩壊です。

鉄道業務を軽視し、職名廃止・融合化や外注化を進めれば、さらに安全は崩壊します。こんな攻撃は許せません。

カギは闘う労働組合の力です。団結して闘えば、融合化攻撃も全面外注化攻撃も打ち破れます。動労千葉に結集し、全面外注化、分社化・転籍反対の声をあげよう。